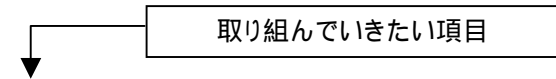


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を見やすいところに明示し朝の朝礼時に唱和し地域密着サービスの理念に沿って努力している。		
	理念の共有と日々の取り組み	朝礼時、出勤者全員で「あすなるホーム理念」を唱和。職員全員が日頃、目に付く場所に掲示し理解を深めている。地域ボランティアにも参加して頂いたりしている。		
3	家族や地域への理念の浸透			
	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会に加入し、運営推進会議。家族会を行い家族、地域の方に理解を得ている。介護保険相談員の方も月1回訪問し利用者様との談話の中で理解を得ている。」		地域の人々に行事・催し物などの時、回覧、広告活動を行い、気軽にホームに来ていただけるように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などの外出時気軽に挨拶を交わし、ホームに立ち寄るように勧めている。		
5	地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動には、積極的に参加させて頂いている自治会にわ加入しているが、自治会のクーリン作戦運動には参加させて頂いている。		自治会・老人会の行事等には、積極的に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「ふれあい大学」の受講生、ヘルパー実習生などの受け入れの依頼に応じている。地域の方の認知症に関する相談を受けている。地域の方に向け介護相談を受けたり、営業として地域に事業所のアピールを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者が意義を理解し、職員全員で話し合いを持ち、評価に対する改善策を話し合っている。勤務者全員が自分の事とし、自己評価し、その関わりの中で、反省すべき事、継続すべき事をしっかり受け止めサービスの向上に努めている。		外部評価を実施する事により、具体化された直すべき点を各自しっかりと把握し、改善するように努めている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において報告、話し合いを行い後日、職員全体で再度検討しサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険相談員 月1回の訪問有り。救急講習、防災訓練に積極的に参加、また、市からの委託の「ふれあい大学」の受講者との話し合いに参加しサービス向上に活かしてもらっている。		介護保険相談員との談話の中で、利用者様の意見を把握しサービス向上に努めている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に職員が参加、全職員に教養指導す。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加、全職員に教養指導し、防止に努めている。施設内での全体会議の中でも、認識と虐待防止に心掛けている。		3月に勉強会(言葉の虐待について)行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、説明を行った後、再度確認を行っている。家族からの質問、不安、疑問等には、説明をし理解していただけるよう努力している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員に気兼ねなく相談しやすい環境づくりを行っている。介護保険相談員やボランティアの協力ありコミュニケーションを通じ意見の交換が出来る機会がありアドバイスも受けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、日常生活の様子を個々に報告している。健康状態、変化のあった時はその都度連絡をし報告を行っている。金銭管理は、ノートに記載し、領収書を家族に送り来所した際報告も行っている。ホーム内の様子や職員の事も報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会で報告、意見交換の機会を設けている。それらお今後に反映させている。意見箱、アンケート調査も行っている。</p>		<p>今後も意見箱、アンケート調査、家族会、を続けることにより、意見など把握し改善していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議、主任会議での議題を上げ、話し合う機会を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事の時はユニット間の応援を受けたり、職員の人数を増やすなど勤務表にも配慮している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>他施設と、お互い連携とり協力を行っている。利用者の影響も考え利用者の負担とならないように、職員数を確保している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	CM研修、包括会議への出席。事業所での勉強会の出席。ミニカンファでの勉強会に各自出席しスキルアップに努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	CM出席の包括会議の出席の中での同業者との関わりはある。埼玉県認知症高齢者グループホーム協議会での研修等に参加し情報を得、サービス向上に努めている。		内覧会の時に同業者の見学をしているが、今後随時見学、意見交換をし、職員の悩み、技術のアップを図っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会の開催。利用者との外食同伴出席により少しストレスが軽減している。		休憩所を広くし、ゆっくりと休める場所を確保する。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	あすなる全体の事例発表が年1回あり取り組んでいる。他研修に参加し報告書を作成し職員が参考にする等、取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調の機会ですべて求めている事など聴取し、その後もコミュニケーションをどうして伺い受け止めて頂けるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、様子を伝え、また家族からの質問にも納得頂けるように説明するなど積極的に情報交換に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会での『家族からの相談はその都度ミニカンファを行い必要な要望に対処している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員内で本人のこれまでの生活歴、趣味等を本人、家族から情報を聴取し、コミュニケーションの中で馴染めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアプラン作成時アセスメントを基盤にして何を望んでいるのかどうしたら楽しい生活が出来るのかを学び作成されたプランをもとにケアをしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時において利用者の体調、日常生活の様子を伝え支援を行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、家族に最近の利用者の様子を伝え利用者とのコミュニケーションを取っていただく事によりより良い関係が保てるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの知り合いの方、友人との面会をとして関係を閉ざす事のないように積極的にこえかけをしている。近隣、商店には、散歩等積極的行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のトラブルにて孤立することの無いように、職員が間に入り利用者同士の関係の理解に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービス利用が終了しても、相談を受けたり今後の事など話し合いの時間を設け対応している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアプランの作成時、希望や意見を利用者や家族から聞き話し合い作成している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族の面会時、生活歴を伺い利用者とのコミュニケーションに取り入れ、これまでの利用の経過等の把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人の健康状態、日々の生活の中で利用者のできる力、わかる力を生活の中で見つけていくよう努めています。一日の暮らしを総合的に把握する様に努めています。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族のニーズと専門的立場から真のニーズを求め利用者本位のケアプランを立て利用者、家族の同意を得ている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し、直後に対応出来ない変化が生じた時、現状にあった関係者と話し合い意見を聞きながらケアプランを作成し利用者、家族の同意を求めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアを介護記録、個人ファイルに残し情報を共有している。ケアプランにそった計画、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイサービスでのゲームなどに利用者が参加し楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回の介護保険相談員の訪問やボランティア、運営推進会議、協力病院、消防訓練の講習、近隣の小学校等協力を得ている。		個別に対応出来るように話し合いを行いながら実施していく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	年3回他のケアマネジャーや包括での会議を開催に意見交換を行い利用者の意向や必要性に応じて、支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	年3～4回会議開催し、権利擁護についての勉強会を行い、尚ケアマネジメントについて、包括と協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診有り。その際問題のあるある時は、受診時にきめ細かく相談している。他の医療機関の受診も家族の意向を取り入れ、受診をサポートしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市内にある専門医(しょうわクリニック、中村病院)と連携をとりながら受診、相談を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設長が看護師で、日常的に協力し、支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携病院とは、相談しあいながら利用者の状況に合わせて連携している。		病院の方からの情報があまり、はいてこない為、施設側から、声かけを促していくようにしたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、家族より終末期のあり方について聞ける範囲で確認を取っている。家族、利用者のその場の状況で判断し聴取している。また、重度化した場合は、家、かかりつけ医と相談しながら、全員で共有しあっている。		終末期に向け時間問わず駆けつけてくれる医師を探し安心して週末が送れるようにしたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その人らしく、よりよい終末期を迎えられるように、病院、家族に協力していただき、変化に備えチームとして話し合いを行い検討を重ねていくことで、出来ること、出来ないことを見極めている。		ターミナルケアについて専門的な勉強会、マニュアル作りをおこなう。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴いダメージを最小限にしていく為、家族と十分な話し合いを、行い情報交換を、行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>普段より個々、対応。言葉賭けに注意し記録等の情報、持ち出さないなど、取扱いに十分に注意を払っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>常に声かけは心がけており、話しやすぶん気作り時には筆談をしたり、本人の意志を尊重する対制をつくっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>第一に本人の意志を尊重し、無理じいはせず、個々に合った生活が出来るように支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自分が好きな衣類を選んでいただくよりにしたり、無理に、着やすさのみを求めたりしないように勤めている。</p>	<p>訪問理容を利用しているので、いきつけの理、美容室があり、通える距離であれば、行けるようにしてゆきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一緒に出来るようにするには、積極的に声かけ等行い片付けなど支援している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個々に合わせた、嗜好を、提供し、楽しんでいただけるように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンをはあくし、オムツからパンツへの変更を行い、自立に向けてしている、排便コントロールのための下剤の地要請も個々にあわせておこなっている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴をチェック表を見ながら、本人の希望、タイミングに合わせて行っている。</p>		<p>職員の都合ではなく、本人が入りたい時に入れるように、体制づくりをおこなって行きたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>状態に合わせていつでも、休みたい時休めるようにしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居時に家族より、家族歴、趣味、等情報を共有しながら利用者に合った役割、楽しみを考え支援している。</p>		<p>近隣の散歩、スーパーへの買い物、外食など実施している。洗濯物のたたみの出来ることは、手伝っていただいている。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭トラブルに発展しまう為、ホームでの管理をしているが、買い物は職員同行にして支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>集団での外出支援は出来ているが、一人ひとりの希望にはそえていない。</p>		<p>できるかぎり一人ひとりの希望日に外出できるように支援して生きたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>回転すし、移動動物園、行事での外出の機会を作っている、家族の呼びかけも行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。		手紙の返信の出来る利用者には、書いていただきやり取りを行っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に、訪問で来やすい環境にし、声かけを行っている。気を使わせないように配慮している。帰る時、又いつでもいらしてくださいと、声かけを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、を目標として取り組んでいる。		身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はいつでも自由に出入りできるようにしている。		玄関のドアを開放にしている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守り、声掛けし、常況におうじ一部介助を実施している。		常に、見守り、目配り、声掛けを行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に合わせ自分で所持しており、危なくないよう目配りしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	病院や消防署と連携を取りながら勉強会も実施している。		これからも勉強会や研修などに参加し、事故防止に努める。心肺蘇生法講習等で学習している。薬に関する文献を作成し、誤薬のないように、指導している。また、薬を飲まず際には、必ず3回確認するように指導している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防署の指導により、救急救命訓練を行っている。応急手当、初期対応の訓練で、救急や事故発生時に備えている。		看護師からその都度指導している。急変時、事故発生時マニュアルを参照に指導している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年2回の避難訓練を行っているが、地域の人々の協力を得られるよう、働きかけは行っていない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクについて、その都度、家族に説明し、話し合いの場を設けている。職員の全体会で抑圧について勉強会を行い対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタル測定を行い、体調変化や異変は、看護師に情報共有し、病院受診など行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の管理表を作成しており、薬の目的・副作用・用法や容量など確認し症状の変化に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりに合った、水分補給(量)を行い、散歩や、一日一回のリハビリ体操などによる運動を働きかけ、取り組んでいる。個々に合わせた排便コントロールを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力に応じ、声掛け、介助、入れ歯の洗浄などを行っている。毎日食後の、声かけを行うことで習慣と成るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最低でも、3食の食事と10時と3時のお茶の時間での水分補給は行い、量や栄養バランスは、個々に合った支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防対策のマニュアルがあり、その時に応じて、勉強会も行い、実行している。		感染症、症状がみられたら、医療機関を受診し早期発見に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理食材の調達などは、業者が行っている。台所は常に清潔を心がけ、調理用具等管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日の玄関そうじ、季節の花を飾ったり、日中は、出入り自由にできるように、開放し、玄関まわりの整理せいとんを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を飾ったり、直射日光が当たらないように、すだれなどを使用したり、時により、心が安らぐような音楽をかけたりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつのある和室で思い思いに巣越せるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様本人、御家族と話して、利用者様が使っていた家具を持ってきていただき、本人様が生活しやすい環境を作っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、清掃の時に、各居室、ホーム内の換気を行っている。温度調節させていただいている。(朝の換気以外にも、その都度換気している) 季節にあわせ、外気との差5度前後とし極端な差のないように、こまめに調整をおこなっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、風呂などには、手すりを設置しており、移動の際活用されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどには、場所がわかりやすいよう、紙に書き表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周は、散歩を行っている。季節ごとの花など庭で楽しんで頂いている。ベランダには、洗濯物を干したり日常生活に活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 入居者一人一人を尊重し日常生活が安心して暮らせるように支援しています。また、感情を共有しながら利用者本意のケアに職員全員で取り組んでいます。